

(概要) 鶴崎地区 都市再生整備計画の事後評価(案)

1. 地区の概要

本地区は大分市北東部に位置し、大野川と乙津川の堆積平野に広がる地域です。江戸時代には肥後熊本藩の飛び地として栄え、寺子屋や私塾が多く設立され、毛利空桑などの著名人を輩出しました。近代には日豊本線鶴崎駅の開業（大正 3 年）や昭和 38 年の大分市との合併により、臨海工業地帯として発展しました。現在は行政、文化、医療、商業施設が集中し、鶴崎踊りなどの歴史を活かした地域文化の中心地としても重要な機能を有しています。人口維持が期待される一方、洪水時の浸水対策や地域の活力維持、地域コミュニティの強化が強く求められていました。

これらのことから、当該地区において各種事業を推進してきました。

2. 地区の目標

大目標	鶴崎地区における地区拠点の形成
目標 1	災害に強いまちづくり
目標 2	教育・文化機能、交流機能強化

3. 計画の概要

所在地：大分市鶴崎地区
事業主体：大分市
面積：84ha
交付期間：令和 3 年度～令和 6 年度
事業費：全体 878.9 百万円
(国費：438.9 百万円)
事業内容：鶴崎公民館改築・鶴崎地域交流センターの整備、鶴崎公園再整備 等

■基幹事業
既存建築物活用事業
(高次都市施設)
【鶴崎公民館改築事業】

■基幹事業
公園
【鶴崎公園再整備】

■基幹事業
高質空間形成施設
(歩行支援施設、障害者誘導施設)
【毛利空桑記念館トイレ整備事業】

■基幹事業
高次都市施設(地域交流センター)
【鶴崎地域交流センター整備】

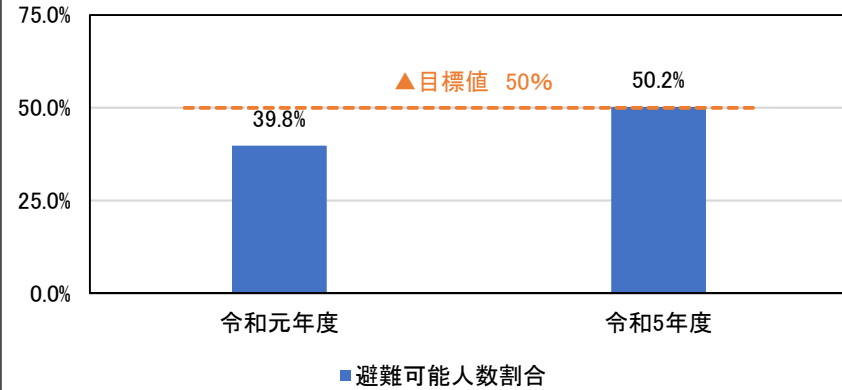
凡例

- ：事業範囲
- ：都市機能誘導区域
- ：居住推奨区域

5. 成果の評価(数値目標の達成状況)

・都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況について

指標1 想定最大浸水時避難可能人数割合



■定義

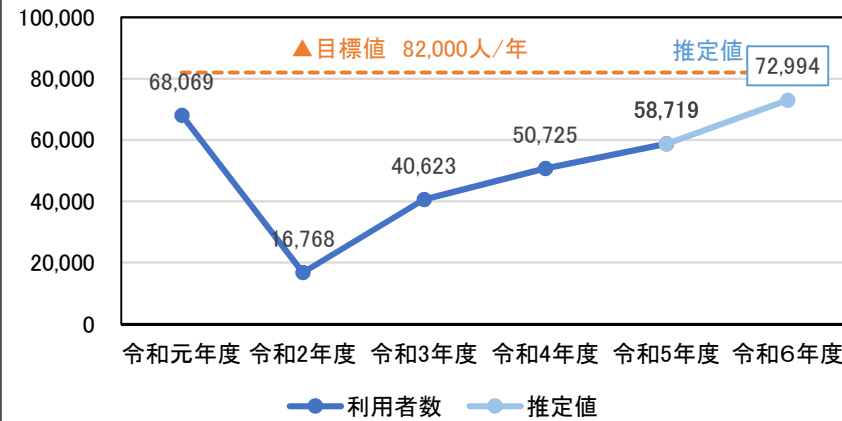
想定最大浸水時に鶴崎校区内の緊急避難場所で受入れ可能な人数の割合

■目標達成度【○】

■総合所見

交付期間中に実施された鶴崎地域交流センターの整備や鶴崎公民館の改築をしたことが効果発現要因と考える。

指標2 教育・文化・交流施設利用者



■定義

鶴崎公民館、毛利空桑記念館の利用者の人数

■目標達成度【△】

■総合所見

コロナ禍の影響で利用者が大幅に減少していたが、近年では徐々に利用者が増加し、今年度の推定値は従前値を超えているため、事業効果の発現は確認できる。

6. 今後のまちづくり方策

方策1：防災機能の維持増進

既存の防災・避難所の機能を維持増進するとともに、事業により整備された鶴崎交流センターや鶴崎公園を活かした新たな防災訓練等のソフト施策を実施し、地区の防災機能の更なる強化を図る。

方策2：多世代交流による、地域の歴史文化の継承

バリアフリー整備により誰もが利用しやすくなった文化交流施設の周知を進め、利用者の増加を図る。また、教育交流施設を新たな教育の場として大分市全域で活用し、更なる利用促進を図る。さらに、鶴崎地区で実施されている国道 197 号の拡幅事業などのまちづくりに合わせ、地区の回遊性や利便性の向上を図る。これにより、地区の関係人口や交流人口が増加し、多世代の交流が促進され、鶴崎地域の歴史や文化を継承していくことを目指す。